

「成長の思想」を求めて

「時間を生かす」とは、どういうことでしょうか。

その一つの意味は、大切な人生の時間のなかで、与えられた「経験」や、巡り会った「人間」から、深い「智恵」を学ぶことです。

では、「智恵を学ぶ」とは、どういうことでしょうか。

それは、言葉を換えれば、「成長する」ということです。

一人の職業人として、一人の人間として、「成長する」ということです。

では、いかにすれば、大切な人生の時間のなかで、「成長」していけるのか。いかにすれば、日々の仕事に捧げる時間のなかで、「成長」していけるのか。この第九話では、そのことについて話をしたいと思います。

しかし、日々の仕事に捧げる時間のなかで「成長」していくためには、最初に問うべき、大切な問いがあります。

「仕事の報酬」とは何か。

そのことを深く問うことです。

そして、自覚することです。

「成長」というものが、仕事の報酬である。

そのことを自覚することです。

そして、できるならば、その自覚を、一つの思想にまで高めることです。

仕事の真の報酬は、「人間としての成長」である。

そうした確固とした思想を持つことが、成長をしていくために、極めて大切です。

もちろん、成長などめざさなくとも、人間は成長していけます。昔から、「人間、何をやっても成長する」との言葉があります。たしかに、いかなる仕事をしようとも、仕事をしているかぎり、人間として何らかの成長を遂げていくことはできます。

しかし、そうした「偶発的成長」と「自覚的成長」は、決定的に違うのです。

「仕事をした結果、人間として何らかの成長を遂げている」ということと、

「人間としての成長をめざし、一生懸命に仕事に取り組む」ということは、

似ているようでありながら、実は、決定的に違うのです。

それは、なぜでしょうか。

「方法」というものがあるからです。

成長には、「方法」というものがあるからです。

そして、その「方法」は、成長ということに対して、

強い自覚や深い思想を持たなければ、決して身につけることはできないからです。

では、その「成長の方法」とは何か。

それについては、既に、これまでの話において、三つの方法を述べました。

「反省」「感得」「師匠」という三つの方法です。

「成長の心得」とは何か

しかし、この話の最後に、

こうした「成長の方法」の、さらに奥深くにあるべき

「成長の心得」について述べておきましょう。

それは、何でしょうか。

「課題」を知ることです。

すなわち、その時々の自分の「成長の課題」を知ることです。

それは、成長していくために、極めて大切なことです。なぜなら、自分にとっての「成長の課題」を知っている人と、それを知らない人とは、その成長に、大きな違いが生まれてしまうからです。例えば、職場の仲間の気持ちを理解し、心を配ることができない。自己表現が下手なため、不用意な言葉で相手を傷つけてしまう。問題に直面したとき、自分以外の他人や環境に原因を求めてしまう。そうした課題です。

では、その「成長の課題」を、我々はいかにして知ることができるのでしょうか。それは、先に挙げた三つの方法を通じて知ることができます。

まず、それは「反省」を通じて知ることができます。仕事に失敗したとき、その原因を反省することによって、自分の弱点や課題が明瞭に見えてくることがあります。

また、「感得」によって、その課題を知ることができます。ある日、ある出来事に直面したとき、「そうだ、これが、いまの自分の課題だ」との内なる声を聞くときもあります。

さらに、「師匠」より指摘を受けて課題を知るときもあります。困難に直面したとき、「君にとって、これを学ぶ良い機会だ」と師匠から教えられるときがあります。

すなわち、我々にとっての「成長の課題」は、「反省」「感得」「師匠」という三つの「成長の方法」に取り組むとき、自ずとそれを知ることができるのです。

なぜ「成長の課題」が大切か

しかし、では、なぜ敢えて、この「課題」ということを述べるのか。成長のための心得として、この「課題」ということを申し上げるのか。

それは、この「成長の課題」というものには、一つの不思議な「理」があることを述べたからです。それは、何でしょうか。

卒業しない課題は、追いかけてくる。

その「理」です。

すなわち、我々が、ある職場で、一つの「成長の課題」に直面したとします。しかし、もし、その職場で、その「課題」を卒業することなく、転職などの形で、その「課題」から逃げたならば、不思議なことに、その「課題」が追いかけてくるのです。

例えば、ある職場で相性の悪い上司がいた。

この上司との葛藤に嫌気がさして、他の会社に転職する。

ところが、気がつくと、新しい職場にも、その上司と似たタイプの相性の悪い人物がいる。そして、また同じような葛藤が始まる。

そうした形で、「課題」が追いかけてくるのです。

これが、「卒業しない課題は、追いかけてくる」ということの意味です。

従って、我々が、もし「転職」ということを考えるならば、その前に一度、このことを考えてみる必要があります。

自分は、現在の職場での「成長の課題」を、卒業しただろうか。

この問いは、大切な問いです。

心理学の用語に、「Unfinished Business」という言葉があります。

これは、「心の深くで、いまだ決着がつかない問題」という意味の言葉です。

実は、我々の無意識の世界は、表面意識の世界よりも、この「Unfinished Business」をよく知っているのです。

表面意識の世界では、「よし、この職場は卒業だ」と考えても、無意識の世界は、「まだ、この課題は卒業していない」と正直に感じているのです。そして、その無意識の世界は、その課題を卒業しようとして、新しい職場でも、同じような問題を生み出し、同じような葛藤を生み出すのです。

いかにして「課題」を卒業するか

では、どうすればよいのでしょうか。

この「成長の課題」を前に、どうすればよいのでしょうか。もう一度、大切なことを述べましょう。

「引き受け」です。

その職場で卒業していない「課題」を、正面から見つめ、その「課題」に取り組むことの大切さを、自覚する。

すなわち、その「課題」を「引き受ける」。それが大切です。

しかし、この「引き受け」が、難しい。

例えば、私自身、前職において、数多くの転職希望者の採用面接をしましたが、そのとき感じたことがあります。

採用面接において、現在勤めている職場についての不平・不満を述べる人は、まず、例外なく、新しい職場でも同じような問題に直面します。そして、また、同じような不平・不満を述べるようになります。

これに対して、採用面接において、現在勤めている職場で何を学んだか、それが自分の成長にいかに関与したか、そして、次の自分の成長の課題が何か、そうしたことを語る人は、新しい職場でも、さらに大きく成長していきます。

これは、我々が転職を考えるとき、一度、謙虚に考えてみるべきことです。

なぜなら、人間は、自分の都合の良いように世界を解釈する傾向があるからです。

問題に直面したとき、

常に、責任は職場にある、上司にある、仕事にある、と考えてしまうのです。そして、「自分に責任があるのでは」とは、あまり考えないのです。

もとより、一つの問題が生まれる背景には、様々な要因があります。

その意味で、客観的に見れば、たしかに職場にも、上司にも、仕事にも、そして、自分自身にも、それなりの責任があるのですが、

もし、その問題の責任を「自分以外の何か」に押しつけてしまったとき、我々は、大きな壁に突き当たります。

「成長」できなくなるのです。

「自分以外の何か」に責任を押しつけてしまうと、

表面意識の気持ちはすっきりするのですが、

無意識の世界は、その問題を「Unfinished Business」として抱えてしまい、一人の人間として「成長」できなくなるのです。

「声」が聞こえてくるとき

これに対して、「その責任は自分にある」と考え、

その問題の「引き受け」を行うと、

我々は、心の奥深くの「Unfinished Business」に光を当てることができ、その結果、それは、大きな「成長の機会」となります。

すなわち、その「引き受け」を行うことによって、

その課題を、自分自身の課題として自覚し、

決して逃げることなく、その課題との格闘を行っていくと、

いつか、自分なりにこの課題を卒業できたかなと思えるときがやってくるのです。

そして、不思議なことに、自分自身が「卒業」を感じ始めた時期に、なぜか、「天の声」が聞こえてくることがあります。

それは、例えば、転属や、転職などの形での「天の声」です。

そして、ときに、その「天の声」に従って動くとき、新しい職場が与えられ、そこで我々は、新しい課題へと向かうことになるのです。

「卒業」とは、しばしば、そのような形で訪れるものです。

だから、敢えて、申し上げたい。

いま、転職を考えている方、そして、

いま、人生の転機を迎えている方は、一度、

この「課題」ということを考えてみるべきでしょう。

この「Unfinished Business」ということを考えてみるべきでしょう。

自分は、この職場における「成長の課題」を卒業しただろうか。

その「卒業」を伝える「天の声」が聞こえてきただろうか。

そのことを考えてみるべきでしょう。

「転機」に求められる心得

しかし、この「天の声」が聞こえてくるためには、

一つ、大切な心得があります。

それは、何でしょうか。

「思い定める」ことです。

「いま、ここが、成長の場」と、思い定めることです。

なぜなら、我々は、しばしば、

「いま、ここ」以外に、「成長の場がある」という幻想を抱いてしまうからです。そして、その幻想が、我々の目を曇らせてしまうからです。

例えば、我々は、現在の職場の仕事が嫌になってしまったとき、しばしば、「Anywhere but Here」という気持ちになってしまうことがあります。

ここ以外の場所なら、どこでも構わない。

そういう逃避的な気持ちになってしまうのです。

また、例えば、我々は、現在の職場に満足できないとき、

「Become There Tomorrow」という気持ちになってしまうこともあります。

いつの日か、(Tomorrow)

ここ以外のどこかの場所に行けば、(There)

いまの自分ではない何かになれる。(Become)

そう考えてしまうのです。

しかし、それもまた、

「未来への希望」の形をとった、

「未来への幻想」であり、「未来への逃避」になってしまいます。

そして、我々の心の中に、「幻想」や「逃避」があるかぎり、

それは、必ず、我々の目を曇らせてしまいます。

そして、その結果、我々は、人生の転機において大切な判断を誤ってしまうのです。

だから、思い定めることです。

もし、我々に「成長の場」というものがあるならば、

それは、「いま、ここ」以外には、ない。

「いま、ここ」で、掴むべきものを、掴むことができなければ、
「いつか、どこか」で、それを掴むことは、ない。

そう思い定めることです。

いま、ここが、成長の場と思い定め、

その成長の場で、どこまでも成長を求めて悪戦苦闘しようとして、
覚悟を定める。

その思いを定め、覚悟を定めるとき、

なぜか、静かに、一つの心境がやってきます。

「いつか、どこかで、何かになろう」(Become There Tomorrow)ではなく、

「いま、ここに、ある」(Be Here Now)

その心境がやってくるのです。

そして、そのとき、我々に、

本当の転機が、訪れるのです。